

新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画

申請事業名(主)	棚田を未来につなぐ若者の働く場創出事業							
申請事業名(副)	棚田保全基金財団の設立を通じて							
※任意	入力数 主 19 字 副 15 字							
申請資金分配団体名	特定非営利活動法人棚田LOVER's							
休眠預金事業への採択/申請歴	<input type="checkbox"/>	2019年度資金分配団体に採択	<input type="checkbox"/>	2019年度実行団体に採択	<input type="checkbox"/>	2020年度資金分配団体(通常枠)に申請検討中	<input type="checkbox"/>	なし
	<input type="checkbox"/>	第1期コロナウイルス対応緊急助成に複数事業で申請						

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域		分野		
<input type="checkbox"/>	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	1)-①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援	
		<input type="checkbox"/>	1)-②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援	
		<input type="checkbox"/>	1)-③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援	
<input type="checkbox"/>	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	2)-④働くことが困難な人への支援	
		<input type="checkbox"/>	2)-⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援	
<input type="checkbox"/>	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/>	3)-⑥地域の働く場づくりの支援	
		<input type="checkbox"/>	3)-⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援	
上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>			

入力数 0 字

実施時期	2020年8月	～	2021年9月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/>	事業対象者：(事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	社会的課題の解決を担う若者 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者 働くことが困難な人 棚田や自然、食に関心がある人 移住、田舎暮らし希望者	事業対象者人数	各団体160人 ×5団体 =800人
------	---------	---	---------	--------	-----------------------------	-----------------------------------	---	---------	--------------------------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
「自然・棚田を愛し、育む、未来の子どもたちのために」という想いのもと、生・食・農の大切さ、自然とともに生きる豊かさを、棚田を保全・活用しながら、実践を通じて伝え、美しい棚田を未来につなげ、支援すること目的として活動しています。具体的には、「交流」、「人材育成」、「棚田を生かす」を軸とし、棚田や里山で農作業や企画を通じて、日本の古き良き文化、命や食のすばらしさを、体感を通じて伝えています。
(2)申請団体の概要・事業内容等
社会的課題の解決を担う若者とともに、自然体験等の事業を行っています。 「交流」事業：子ども食堂、居場所づくり事業、棚田ラバーズフェス、貸農園運営、婚活企画、「人材育成」事業：米を育てる人を育成する棚田エコ学園事業 「棚田を生かす」事業：農作業・自然体験、棚田でお米を育てる体験 毎日新聞地球未来賞クボタ賞受賞 読売新聞おおによし賞奨励賞など12の受賞賞 140団体と連携し、メディア掲載回数165回

入力数 (1) 196 字 (2) 199 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
棚田は「日本のピラミッド」といわれるほどの伝統・文化、美しい景観、教育、国土保全といった多面的機能を有しており、農業生産活動を主体としつつ、地域住民等の共同活動によって守られている国民共通の財産である。 その財産である棚田は全国に22万haあるが40%以上が放棄され、荒れている。 2011年に本団体と地域が共同で実施した兵庫県神崎郡市川町上牛尾集落全戸（153軒）へのアンケート調査で『あなたが所有する農地の跡を継ぐ人はいますか?』という問いに対して、88軒中41軒が跡継ぎがないという結果である。さらに、子ども数が激減し、（1クラス10名以下も）廃校になった小学校も存在し、子ども会もかなり縮小し、婦人会もなくなっている。このままいくと地域自体がなくなってしまう可能性が高い。 また、定期的に講師として来ていただいていた学童保育の主婦が、コロナに感染し、地域の目が非常に厳しく、監視され、仕事を失われた。感染していない娘はバイトも行けず収入がなくては生活できないと号泣されている。 全国的にそのような状況にある団体も多く、棚田の荒廃、離農、過疎化、人手不足、鳥獣被害、景観の保全が課題である。コロナの影響で観光客が減り、より人手不足は深刻化・顕著化している。その課題に対して、社会的課題の解決を担う若者の能力開発、子どもと若者の育成支援、地域の働く場づくりの支援の必要性、緊迫性がある。 その解決のためには、耕作放棄地の受け皿組織の設立と多業による仕事の創設、若者に触れられ地域住民・組織が活動開始、地域・都市住民が人件費の支援を受けて復田、働くことが困難な地域外住民をメンバーに追加、企業・ボランティアの受け入れ、古民家の再生などがあげられる。 棚田の課題解決がコロナの課題解決にもつながる。 情報源：農村振興局農林政策部地域振興課中山間地域・日本型直接支払室のインタビュー調査

入力数 794 字

Ⅲ.申請事業

(1)申請事業の概要
上述した財産である棚田を未来につなぐ若者の働く場を創出するために、社会的課題の解決を担う若者の能力開発、日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援、働くことが困難な人への支援、地域の働く場づくりの支援などに取り組む団体を支援する。そのことで、棚田保全を軸とし、地域とつながり暮らししていくことが安心・安全なコミュニティづくりにもつながる。そして事業の参加費50％（参加費4000円場合2000円）を棚田保全基金として集め、棚田保全基金財団を設立し、助成終了後も継続して事業に取り組む。事業の中で、採択団体同士が活動を発表する企画も一般の方々含めて500名を目標として実施し、事業を普及啓発する。

入力数 300 字

(2)活動(資金支援) (実行団体の活動想定)	時期
社会的課題の解決を担う若者、日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者、働くことが困難な人を調査・募集。ニーズ調査、3回の企画の内容を設定	2020年8月～2020年10月
上記の方々とともに自然体験、農作業体験、棚田の保全活動（石垣積み等）、古民家の再生活動を行い、地域の働く場づくりを創出する。基金集め	2020年11月～2021年1月
2回目の企画実施、安心・安全に暮らせるコミュニティづくりにつなげる。棚田保全基金を集め、ニーズ調査を行う。	2021年2月～2021年4月
3回目の企画実施、活動の中での課題やニーズをまとめる。	2021年5月～2021年7月
活動の報告、課題や情報交換会を全国から実行団体が集まり行う。そのことで、実行団体同士の親睦を深める。	2021年8月
報告書を作成し、広く社会にPRする。来年度以降の計画を練り、棚田保全基金も継続して集める。	2021年9月

(3)活動（資金分配団体による伴走支援）	時期
・事前評価、事後評価の実施についての支援：先進事例の取り組みを伝え、活動の評価項目を設定し、活動の目標を明確にする。	2020年8月～2020年10月
・月1回の実施状況の確認と事業実施に対する助言：課題や活動を共有しあい、協力・連携団体も紹介する	2020年8月～2021年9月
・事業の実施状況・取り組み事例の共有に資する情報公開：本団体のサイトやsns等で活動を紹介し、先進事例としてPRする	2021年2月～2021年9月
・活動報告会での発表の仕方や情報共有のノウハウのアドバイス、報告書のまとめ方のフォーマットの啓示、来年以降の対策を相談	2020年8月～2021年9月

(4)今回の事業実行を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
社会的課題の解決を担う若者5名 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者5名 働くことが困難な人2名 企画数、参加人数 3企画、各50人 棚田保全基金の金額30万（2000円×50人×3企画）	人数、企画数、参加者数、金額	実際のカウントで把握	社会的課題の解決を担う若者5名 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者5名 働くことが困難な人2名 企画数、参加人数 3企画、各50人 棚田保全基金の金額30万（2000円×50人×3企画）	2021年9月

(5)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
社会的課題の解決を担う若者7名、日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者7名、働くことが困難な人3名、企画数、参加人数 3企画、各50人 棚田保全基金（参加費50％程度）の金額30万（2000円×50人×3企画）を継続し、今後もクラウドファンディングなどを実施し、棚田保全基金を集めることができる仕組みを継続して構築する。

入力数 163 字

Ⅳ.実行団体の募集

(1)採択予定実行団体数	6団体	(2) 1 実行団体当たり助成金額	5000000
(3)申請数確保に向けた工夫	事業対象者と深いつながりがある10団体程度の候補に呼びかけ、その中から5団体に絞り込む。Snsや団体のHP、口コミ、メディア（掲載実績165回を生かす）などで案内する。コロナウイルスに対して参加者や各団体のメンバーにインタビュー調査を行っているので、より現状が厳しい団体に支援できるような体制にする。社会的課題の解決を担う若者、日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者、働くことが困難な人とのつながりが多い団体を重視する。広い部分で棚田保全につなげるため、棚田保全基金の仕組みを活用し棚田保全団体だけに限定しない。そのことで、より多くの方々に棚田へ関心を持っていただけることにつながる。		
(4)予定する審査方法（審査スケジュール、審査構成、留意点等）	採択後審査委員会を設置（兵庫県立大学の加藤教授などの学識経験者、本団体の理事などが入る）し、7月上旬～下旬に実行団体の公募・選定する。 審査に当たっては、申請書類以外にも聞き取り調査も行い、その過程から事業が促進できるようにアドバイスしていく。		

Ⅴ.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	総括（理事長）：永菅裕一、会計（税理士）：安居 謙太郎 事務・経理： 通帳管理： 農業アドバイス（副理事長）：牛尾武博（有機農業約37年実施）、企画アドバイス（理事）宮脇寿一（イベント運営約40年間実施、元観光協会会長）、アドバイス（理事）白井潔、（監事）相沢勝也
(2)他団体との連携体制	一般財団法人日本グラウンドワーク協会案：過去に助成を4団体している実績、理事長は農水省出身で、事業に関連する経験が豊富である。 安居 謙太郎税理士事務所、移住支援センターや行政、事業対象者となつながらある団体と連携を生かす。（連携団体約140団体）
(3)想定されるリスクと管理体制	感染症の拡大のリスクのため、三密を避け、リスク管理して行う。税理士にもアドバイスいただき資金を適切に扱う。天災などの場合も継続して事業が実施できるように、防災対策も共有する。事業が実施困難な場合は別団体を紹介する。

Ⅵ.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
①コロナウイルス感染症に係る事業				
本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
本申請事業以外の事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している（予定も含む）	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②その他、助成金等の分配の実績				
過去に4団体に資金を分配している実績がある。資金を分配するだけでなく、中間支援団体として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全など、社会的課題解決に取り組む地域活動を応援している。【具体的な内容】①活動の取り組み方法に関する相談及びアドバイザーの派遣 ②活動資金確保のための補助金・助成金申請手続き、③研修、セミナー、シンポジウム等の講演者の派遣 ④アイデアや労働力を応援する大学生の派遣 ⑤「棚田保全応援室」、「農福連携応援室」による相談、アドバイザーの派遣、⑥男女共同参画の推進 報告なども随時HPに掲載し、情報公開している				
(2)申請事業に関連する調査研究、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等の実績				
助成プログラムの事務局運営経験を積んだ理事長と運営ノウハウ、助成プログラムの制度設計に関する経験とノウハウ、助成プログラム運営に関する人脈、ネットワークを有する。				
過去には棚田学会や棚田ネットワークなどでも発表した経験があり連携やマッチングを図ることができる。今まで、兵庫県知事賞の実績で県とのつながり、オーライ！ニッポン大賞審査委員長賞：農林水産省主催で国とのつながり、毎日新聞地球未来賞クボタ賞受賞、読売新聞おおによし賞奨励賞の受賞もありメディアとのつながりも強い。（過去167回掲載）コープこうべ虹の賞によりコープこうべつながりもある。さらに、棚田フェスでは過去10団体に出演いただき、40団体の出店で約500名が来場している、その実績を生かして、事業に取り組むため効果は高い（別紙詳細参照）				